

Title	法學部法律學科開設七十周年記念行事
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication year	1960
Jtitle	法學研究：法律・政治・社会 (Journal of law, politics, and sociology). Vol.33, No.12 (1960. 12) ,p.231- 233
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	法學部法律學科開設七十周年記念論文集
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-19601215-0231

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

法學部 法律學科 開設七十周年記念行事

かえりみれば、現時の義塾法學部法律學科の誕生は、實に遠く明治の中葉までさかのぼるのである。

明治二十年十月、小泉信吉氏が招かれて塾長に就任するや、義塾の學事は飛躍的に改良・擴張されることとなり、當時の私學としては最初の大學部を設置する計畫が推進された。かくて同二十二年十一月には、文學科・理財科・法律科の各主任教授となるべき三名のアメリカ人——ウィリアム・リスカム、ガーレット・ドロップス、ジョン・ヘンリー・ウィグモア——がハーバード大學から來朝し、翌二十三年一月二十七日、初の始業式が三田山上で舉行され、ここに大學部は正式に發足するにいたつた。そしてそれはまた、傳統ある法學部法律學科の呱呱の聲をあげた日でもあつた。これより數えてここに滿七十年、明治・大正・昭和と歲月を閲して、いうなれば本年をもつて古稀の祝いをむかへたしだいである。

この記念すべき年にあたり、法學研究會では、二・三の記念行事を開催した。次のとおりである。

法學部法律學科開設七十周年記念行事

一 公開講演會

十月十四日 午後一時—四時
於 三田第五〇二番教室

一 挨拶

小池隆一教授

一 神戸寅次郎先生の人と業績

田中 實教授

一 初代主任教授ウィグモア先生の人と業績

平 良助教授

まず、法學研究會委員長であり法學部の現役教授では最長老である小池教授より、記念講演會開催の趣旨について挨拶を述べられた後、法律科の育ての親とも呼ぶべき故法學博士神戸寅次郎先生についての懷舊談にもおよばれ、後進一同、往時を偲んだしだいであつた。ついで田中教授の講演に移つた。

法律科第一回生の一人であり、卒業後も義塾にとどまり四十數年の長きにわたつて教授としてあるいは科長・部長として塾生の指導にあたられ、また同時にわが民法學界の權威として後學の尊敬を一身にあつめられた神戸寅次郎博士の人となりとその學問的業績について、田中教授は詳細に論じ、この偉大な先達の學恩に無限の感謝をささげられた。

最後に、平助教授は、法律科の生みの親とも稱すべき初代主任教授たる故ウィグモア博士の、その人格と功業につき熱をこめて説かれた。博士が義塾に職を奉じた三年間は、塾生にとつてはこよなき

最良の師であり、また歸米後の多彩な活躍こそは、深奥な思索と綿密にして果斷な實行力に富むその人柄が、遺憾なく發揮されたものといえよう。まことに、博士のごとき世界的法學者を創設者としてもつ誇りを、あらためて感得したしだいであつた。

二 明治前期民事法關係立法史料展示會

同日 午前十時—午後四時

於 三田第二研究室野口サロン

これは本藝法學部研究室ならびに本藝圖書館に所藏されている、舊元老院議員・村田保文書および舊元老院書記官・小田切盛徳文書の中より、とくに民事法關係の立法史料をえらんで出品したものであつて、いずれも門外不出の稀難史料である。圖書館所藏文書の出陳を許可された本藝圖書館長・前原光雄教授の御厚意に深謝いたしたい。

同日は、たまたま本藝において日本私法學會が開かれており、同學會關係者の參觀も多數にのぼり、一般塾生も加わつて終日盛會であつた。

當日、展覽された諸史料を掲記すればつぎのごとくである。

- 一 民法第一人事編 (明治五年) 一册
- 二 箕作麟祥譯佛蘭西民法書入本 (明治五年—六年) 三册

- 三 民法會議記錄 (明治五年—六年) 三册
- 四 民法議定 (明治五年—六年) 二册
- 五 民法假法則 (明治六年) 二册
- 六 民法假法則第二 (明治六年) 一册
- 七 民法講義 (明治七年—九年) 七册
- 八 民法會議筆記 (明治七年—九年) 八册
- 九 箕作麟祥譯佛蘭西法律書民法 (明治七年—九年) 二册
- 一〇 佛國民法契約編講義 (明治八年) 四册
- 一一 民法草案人事編 (明治二十一年) 一册
- 一二 民法草案人事編理由書 (明治二十一年) 二册
- 一三 民法草案獲得編第二部理由書 (明治二十一年) 一册
- 一四 民法草案人事編再調査案意見書 (明治二十三年) 一册
- 一五 財産取得編第二部意見書 (明治二十三年) 一册
- 一六 民法草案人事編 (明治二十三年) 一册
- 一七 元老院における舊民法審査村田意見書の斷片 (明治二十三年) 一册
- 一八 官報號外 (明治二十三年) 一册
- 一九 法典編纂に關する法學士會の意見書 (明治二十二年) 一册

二〇 山田顯義宛の村田書簡（明治二十三年）

一通

二一 訴訟法假規則（明治六年）

一冊

二二 訴訟法（明治十三年）

六冊

三 名譽教授西本辰之助先生を圍み、懷舊談を伺う會

十一月二十五日 午後三時—六時

於 三田第一研究室辭書室

法學博士西本辰之助先生は、明治四十年に法律科を卒業するやただちに義塾に残られ、以來三十數年、法學部の專任教授として教壇にたたれ、また大學豫科主任・學部長として塾生を薰陶されたが、大東亞戰爭の末期、後進に道をゆするため現役を退いて名譽教授・義塾學事顧問となられた。しかしその後もひきつづき講義は擔當され、いまなお鑿鑿として商法（手形法・小切手法）を講じておられる先蹤であり、と同時に、かつて山陰短期大學々長の要職をも兼ねられていたことは周知のとおりである。

先生の塾生の頃の、そして留學當時の、あるいは現役教授時代の回顧談は、その御風格がたくまずして現われ、拍手を呼び、笑聲を湧かせ、一家團樂さながらの慶びをわかつたしだいである。

當日は助教以下多數出席し、それに二・三の教授を混え、寔に和氣霽々の會合であつた。